

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290200203		
法人名	株式会社大曲仙北介護支援事業所		
事業所名	グループホーム賀田		
所在地	弘前市大字大久保字西田98-4		
自己評価作成日	令和5年7月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和5年9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援を心掛け、生活の中でできることは行っていただくとともに、お互いの助け合い精神も大切にしている。
職員に関しては利用者様の尊厳を大切に、心にゆとりを持ちながら接してもらうように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍では、地域の夏祭りや敬老会、町内会親睦会の他、近くの小学校の運動会・卒業式への招待等、地域との交流の多くを自粛していたが、今年になってから少しずつ再開している。
管理者及び職員は「地域での生活の継続支援」「家庭的な生活作り」「尊厳を大切に生活提供」というホーム理念に沿って、利用者が地域の一員として、自分らしく穏やかに過ごせるよう、力を合わせて日々のケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を取り入れ、地域との交流、家庭的な生活、尊厳を大切に支援を提供している。	ホーム独自の理念には地域との関わりを意識した文言も含まれており、各ユニットの出入口と事務室内に掲示している。職員は都度理念を目にし、日々のサービス提供場面に反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	第5類に移行し、地域の敬老会への招待を受けたが、終息に至っていないので見合わせている	コロナ禍前は地域の夏祭りや敬老会等、様々な行事に参加したり、近隣の小学校の運動会や卒業式等に招待されることもあった。現在は交流の機会は減少しているが、校長先生は運営推進会議のメンバーであり、コロナ禍でも書面での情報交換が続けられ、今年度は運動会への招待を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催していたが、コロナウイルス感染拡大防止のため、書類による開催となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」に基づき、文書による開催に変更している。委員からはコロナウイルスについての意見や要望を文書でいただいている。	コロナ禍以降、運営推進会議は書面で開催しており、2ヶ月に1回、ホームから利用者の生活状況や取り組み等について報告している。また、メンバーから情報提供や意見・提案をいただけるよう、記入用紙と返信用封筒を同封しており、いただいた意見等をサービスの質向上に活かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在はコロナウイルス感染予防のため、文章や電話等で協力していただいている。	市からはファックスやメール等で様々な情報提供があり、疑問点は電話やメールで問い合わせしている他、相談したい事がある時は直接足を運ぶ等、日頃から連携を図っている。また、運営推進会議の議事録や自己評価及び外部評価の結果も提出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止及び適正化委員会を設置し、3ヶ月に一度研修を行っている。新規採用職員研修も同時に行っている。	身体拘束適正化委員会を設置し、3ヶ月に1回会議を開催しており、ホームの現状確認をしながら勉強会を行い、議事録を職員に回覧して共有している。管理者・職員共に身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアに取り組んでおり、無断外出に備え、地域の駐在所にも協力をお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者から虐待防止について、3ヶ月に1度のペースで研修が行われている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前回より必要性のある利用者が増え、現在も成年後見制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族からの入退所等の相談や要望には、不安を解消できるよう、迅速に対応をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置することで、意見や苦情を出しやすいように働きかけている。	利用者の意見は日々の関わりの中で聞けるように取り組んでいる他、職員同士でも情報共有しながら、利用者の表情や反応を見て対応を検討している。また、家族がホームを訪れた際に情報交換し、意見が出されれば早急に話し合い、ケアに反映させるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が直接、定期的に個人面談を行い、スタッフ会議等でも意見を聞いている。	毎日の申し送りや月2回のスタッフ会議で、職員同士が自由に意見交換できる他、業務の合い間等を利用し、管理者に相談できる環境を整えている。また、代表者との個人面談の他、本部から職員へアンケートを行うこともあり、職員の意見を反映させ、働きやすい環境を整えるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が職員の相談に応じ、やりがいを持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年4回、労働安定センターによるオンラインでの研修を定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスが終息に至っていないため、認知症カフェへの参加は控えているが、同業者とは随時情報交換ができるよう、体制を整えている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始するにあたり、困り事や不安、要望を傾聴し、伝えることが困難な場合は気持ちを読み取り、安心感を与えられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の段階で本人や家族と話し合い、意向に耳を傾けることで、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中で一番の困り事をケアプランに取り入れ、他の職種と連携し、必要なサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができる事は行っていただき、できない事をお手伝いしながら、その人らしさを大切に家庭的な生活を送れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時、電話や広報新聞で担当者から日頃の状況をお伝えしている。家族と共に本人を支えていけるような取り組みをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	韓国在住の娘さんとリモート面会を行うための整備が整い、昨日リモート面会をして、利用者は涙を流し、喜んでいた。	コロナ5類移行後は、家族から事前に連絡をいただいて、玄関で距離を保って面会をしたり、馴染みの美容院への外出を支援する等、状況を見ながら対応している。また、毎月発行する広報誌の中に担当職員からのコメント欄を設け、家族に利用者の暮らしぶりを伝えている他、こまめに電話で報告したり、手紙のやり取り等も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格を把握し、関係が悪化しないような環境作りを行い、トラブルを未然に防ぐように努めている。また、軽作業等で持てる力を出し合い、関わりを大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される利用者の今後の方針や情報、ケア等を退所先の関係者に伝え、相談や支援に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一日の過ごし方について心身の状態等を記録しており、情報を共有し、利用者の視点に立って日々のケアを行っている。	入居時のアセスメントで生活歴や好きな事等を聞き取り、入居後も会話を通して、利用者の思いの把握に努めている。また、家族から得た情報等は申し送りや連絡ノートで共有し、ケア会議で意見交換をしながら、利用者一人ひとりに合った支援を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の段階で家族や本人、支援担当者と共に話し合い、今までの生活の経緯をアセスメントし、情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や心身状態、排泄・食事・水分量等をケース記録に記入し、把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会が頻回にある家族には計画書の説明がなされているが、家族と疎遠の方については、本人の意向を取り入れた介護計画を立てている。	日々の会話や観察を通して、利用者の意見や希望を把握している他、家族の意見も確認し、個別の介護計画を作成している。介護計画は3ヶ月の期間設定で、毎月のモニタリングと3ヶ月毎の評価を行い、状態変化等により必要な時には、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者を中心に申し送りやケア会議等で情報を共有、記録に残し、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内において、干し柿作りや山菜の皮むき等、四季折々のニーズに応じて、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年は近隣の小学校から運動会への招待があり、少人数ながら出席できた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を希望されている場合はその意向を汲み取り、家族対応で継続していただいている。	ホームでは月2回の協力医療機関による往診があることも説明し、入居後の受診について相談している。希望の医療機関を受診する場合や入居後に専門医受診が必要になった時は、可能な範囲で家族の協力を得て、適切な受診ができるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師が在中しており、体調管理や介護職員への指導・助言を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはサマリーを活用し、病院関係者との情報交換をしている。必要に応じて担当者会議を開き、連携に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは行っておらず、重度化した場合は家族や医療関係者と連携を図りながら、今後の方針を話し合う体制である。	看取り介護は行わない方針であり、利用者の重度化や継続的な医療行為が必要になった時等は、ホームでの対応が困難になることを説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による急変や事故発生初期対応の研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防防災訓練(夜間想定訓練を含む)を実施し、消防署からの指導を受けながら、連絡体制を強化している。	日中・夜間の火災を想定した訓練を年2回行っている他、洪水被害時のホーム内垂直避難の訓練も年1回行っている。また、災害時に備え、日常の食材を多めにストックしている他、飲料水や卓上コンロ等、自家発電機も用意しており、全職員が発電機の使用を学ぶ機会も設けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の中で「尊厳を大切に生活提供」として挙げており、適切な声かけやプライバシーに配慮した対応を心がけている。	職員は言葉遣いや声かけ、プライバシーへの配慮に注意を払い、一人ひとりのペースに合わせ、尊厳を大切にするケアに取り組んでいる。不適切なケアが見られた時は職員同士で気兼ねなく注意し合い、利用者が穏やかに過ごせるよう、支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服や嗜好品を自分で選べるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や能力、本人の希望やペースに合わせて、その人らしい暮らしが送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度の散髪で、本人が希望されるヘアスタイルで、おしゃれが楽しめるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下拵えや後片付けを中心に、利用者が進んでお手伝いをされている。また、行事食を取り入れ、食事が楽しみなものとなるように取り組んでいる。	献立は職員が交代で作成し、季節を感じられる行事食を提供している他、食事状況や残食確認で利用者の好みを把握し、代替品の提供や食事形態にも配慮している。また、利用者一人ひとりの状態や意向により、野菜の皮むきや食器拭き等を手伝っていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	残食や水分摂取量を把握し、好みや苦手なものを考慮しながら、バランスの摂れた食事を提供している。水分は好みを重視し、摂取しやすいように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔状態の観察を行いながら、一人ひとりの能力に応じたケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりのパターンに合わせた排泄介助を行っている。排泄に失敗した利用者に対しては、自尊心を損なわないような声かけを行い、次につながる支援を心がけている。	排泄チェック表に個々の排泄状況を記録し、パターンに合わせたトイレ誘導を行っている。利用者一人でトイレに行く時は終わった後の状況をさりげなく確認し、失敗した時も声かけや接し方に注意しながら、尊厳に配慮した支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日リハビリ体操を行い、運動で予防している。排便状況を観察して排泄チェック表を活用し、状態に応じて、飲用品を見極めて水分量の確保に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	その日の体調を考慮し、声かけをしている。また、入浴剤を使用することによりリラックスでき、心身の安定や安眠につながるよう支援している。	熱い湯や長湯の希望にも職員が注意深く見守り、声かけをしながら、体調に支障がない範囲で対応している。入浴の拒否が見られる場合は、時間をおいて声かけしたり、職員を替えて対応する等、工夫をしながら、一人週2回は入浴できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを尊重し、個々に休息されている。就寝時は一緒に入床準備を行い、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は施設で行い、個々の病気を把握した上で職員がチェック表を活用し、飲み忘れや誤薬がないように取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の食器拭き等が役割となり、歌や踊り等は皆で参加して楽しんでいる。外出や買い物で気分転換ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近くの公園に出かけたり、普段行けないような場所へはジャンボタクシーをチャーターして出かけている。今年はずぶた村や岩木山神社へ行き、楽しむことができた。	ホーム周辺を散歩したり、少人数で近くのコンビニに買い物に行く等して、利用者の気分転換を図っている。また、コロナの感染状況を見ながら、車に乗ったまま季節の景色を楽しめるドライブを企画したり、職員が様々な工夫を凝らした屋内行事を行う等、できる限りの支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はトラブル防止のため、現金を所持していない。買い物の際は立替払いにて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等へ電話の依頼や本人への電話の取り次ぎをしている。手紙やはがきの代筆や代読の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに空気清浄機を設置し、温度や湿度を調整している。四季を感じられるような飾り付けを一緒に行っている。	対面式キッチンからホール全体を見渡せる造りであり、木製の食卓テーブルの脇にはソファを設置して、利用者がゆっくりと寛げるようにしている。また、壁には利用者と職員が一緒に作成した、季節に合わせた作品を掲示している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファやテレビがあり、気の合う利用者同士でテレビ視聴したり、談笑できる共同空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と一緒に写した写真、はがき等を飾り、愛着のある物に囲まれ、思い思いに安らぐ空間となるように使用されている。	居室には馴染みの物を持ち込んでいただき、職員が利用者と相談しながら、家に居るような環境作りを支援している。また、足りない物がある時は随時家族に連絡し、不自由なく生活できるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや教室等には目印を表示し、混乱しないように配慮している。居室内はスムーズな導線を確認し、できる事やわかる事を継続して行えるように支援している。		